

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390700110		
法人名	プレステック株式会社		
事業所名	グループホーム しらかば園		
所在地	〒028-8602 久慈市山形町川井10-55-1		
自己評価作成日	令和5年9月5日	評価結果市町村受理日	令和6年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな環境 ・手作りケーキで利用者の誕生日会を開催し、様子を写真に収め家族に送付し喜ばれている ・地域行事への積極的な参加により、地域とのつながりを持つ ・施設で収穫した野菜でのおやつ作り等実施し、自宅にいる時のように過ごす ・外部からのボランティアを受け入れ、楽しく過ごす時間を設けている ・停電に備え、電源確保のため自家発電装置を2台設置している

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>久慈市役所山形支所や消防署、駐在所、診療所等の公共機関が近接する小規模多機能ホームと一体となった開所5年目の事業所である。コロナ禍が続き交流は制約されるが、近隣の方から野菜を頂いたり民謡ショーや夏祭り見学等の地域交流が再開されている。日常生活の中での“生活リハビリ”を重視し、利用者の可能な活動(清掃など)を職員と共に取り組み、積極的に身体活動を行う機会を設けている。経験豊かな職員が多く、管理者と共に考え、より良いサービスの提供に努めている。地域の医療・看護の体制が整わず終末期・看取り対応の限界があるが、本人や家族の希望に最大限応えるケアを行っている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の方針、理念を職員で共有し、その実践・実現に努めている。職員一人一人の理念を掲げ、目標をもって介護についている。	開設5年目の事業所で、設立者が定めた法人理念を玄関に掲げている。年度毎に職員は各自の目標を立てケアに当たっている。事業理念を定める必要は感じながらも、全員の合意には至っていない。	経験豊かな職員が多く、個別に「わたしたちの理念」を毎年度立てているが、事業所理念と一体化するまでには至っていない。「その人らしく生きる」については合意しており、職員で再度話し合いこの表現を核とするなどしながら、事業所理念を定めることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため各種行事を実施できないでいる。うずうずしています。	コロナ禍で地域交流は制約されているが、近隣の方が苗や野菜・山菜を差し入れてくれる。会社代表は町内会の役員ということもあり、町内会に加入していないが広報等は回覧板で届いている。民謡ショーを行う等、各種交流が徐々に増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍が長引き、実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文書での会議にとどまっている。	市社協代表やふるさと振興課長の2名を新たに委員に加え、委員会は書面開催としている。資料は各委員に返信用封筒を同封し郵送している。電話でも各委員の感想や意見を求めており、委員から地域の高齢者情報が寄せられている。	委員の補充や書面開催の実施等の改善が図られている。参集し対面での会議開催を望むが、コロナ禍で書面開催の場合は委員の感想や意見等を添付資料として各委員に届け、委員相互の連携などを深める工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メール、電話での情報交換は密にしている。	市からは電話・メール・FAX等で1日おき程度に各種情報が入っている。支所の地域包括支援センター職員は頻りにホームに来所し、情報交換等を行っている。地域の警察や消防との連携も密であり、協力関係が築かれている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業開始時から現在まで、身体拘束は行っていない。身体拘束適正委員を中心に身体拘束・虐待について勉強会を開催、職員全員で共有できるよう回覧し周知に努めている。	身体拘束適正化委員会は職員5名で構成し、2か月毎に開催している。毎月の職員会議を利用して、委員が中心になって勉強会を行っている。「ダメ、ダメ……」などの言葉による行動抑制の具体的事例を取り上げ、改善に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を中心に研修会を開催し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に該当する方はいないが、制度内容については、今後も機会を捉えてその理解、周知に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解していただけるよう、丁寧にゆっくりと説明し、納得して同意いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者・家族の意見を何気ない会話から引き出すよう努めている。外出希望には、コロナのこともあり思うようにならないが、近所の畑へ散歩や花見ドライブなど行っている。	利用者や家族の状況を詳細に把握し、個々の要望や相談に応じている。「しらかば便り」を毎月家族へ届け、併せて利用者一人一人のスナップ写真(カラーの顔写真)を同封し喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議等で意見交換を行い、良いことは取り入れ運営に反映させている。	ベテランの職員が多く、職員会議では活発な意見が出され、また日常的に管理者と気軽に相談し一緒に解決策を考えている。個人面談を年に1回設けている。ゆっくり休める休憩室設置の要望が出され、当面の対応としてソファや布団を購入した。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力やアイデア、また勤務状態を勘案した中で給与水準の引上げを図る等、処遇改善を目指している。また、働きやすい環境整備の一環として、子育て支援(手当)制度や介護支援(手当)制度を創設している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に応じた研修参加を实行したいが、コロナ禍の影響で思うようになっていない。今後、状況が改善されたら積極的に推進したい。開設以来、各種資格所得を推奨しスキルアップに努めている。]		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、相互訪問はないものの情報交換は電話にて行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な説明と丁寧な聞き取りを心がけ、安心した生活環境が保てるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な聞き取りに努め、要望等について家族と職員が共有できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、担当ケアマネ、家族の意向にアセスメントから今必要とする支援を提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHという共同体で互いに寄り添い生活する中で、利用者・職員共に支え合い信頼できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告、連絡をこまめに行い、情報共有、認識が一致するよう努め、共に支えて行けるよう努力している。時には手紙等で様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類に移行になり少し面会、外出を緩和していたところ、再びコロナ感染が多くなり面会はガラス越し、交流は電話にしている。	家族同行での通院後、自宅近辺を訪れたり外食される方がいる。職員の外出時に利用者も同乗し、自宅や馴染みの場を訪れている。コロナ禍以前は知人等の来所があったが、現在は家族のみである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仕事の取り合い等発生するので当番制を設け、声掛けなどもこまめに行い孤立せずに過ごしている。長寿の方、腰痛持ちの方をいたわる様子も見られ、今後も継続するよう努めていきたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後に、現在利用中の施設職員と連絡を取り様子を伺っている。相談があれば受け入れるなど、心掛けている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当が窓口となり、利用者の希望等を職員で共有し、コロナ禍で思うようにならない面もあるが、できる範囲で希望に添うよう努めている。	全員が言葉でのコミュニケーションが可能で思いや意向を伝えている。職員は個別に話しかけたり、傾聴する機会を設けている。把握した情報は職員間で共有し、利用者の希望に応える様努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話、本人からの聞き取りなどから一人一人に寄り添い、サービス支援へ反映させるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の状況を申し送りや記録で把握するようにしている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当が窓口となり、利用者の様子や希望等をケアマネに伝え、本人との面談を行い、話を聞いてケアプランに反映させている。	ケアマネは利用者と丁寧に会話して情報を得、居室担当が介護計画の項目毎にモニタリングしたケース記録を参考に、ケアプランの原案を作成している。原案を全職員でカンファレンスし、ケアマネが家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は詳細で分かりやすく記録し、職員間で周知・共有できるようにしている。その他に業務連絡ノートを活用し情報共有、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者ニーズに合うサービス提供に、職員間で意見・情報交換しながら支援、サービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館(2回/月)、の元商店でのおやつ材料、買い物等を楽しんでもらっている。(現在はコロナ禍により中止状態)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常受診以外は家族へ連絡してから受診し、結果の報告を行い、また別の医療機関を受診した際は、主治医に必ず報告している。	入居前のかかりつけ医利用が多く、2名が家族同行で受診している。事業所での情報を家族を介し医師に届け、受診結果報告を得ている。地元の診療所は週3回の診療で職員が通院介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化等、気づいた時は必ず看護師へ報告し、指示を仰ぎ医療機関伝達している。受診結果についても看護師に申し送っている。		

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は速やかに情報提供を行うようにしている。入院中は状況把握に努め、退院時も医療機関からの情報を共有し適切なケアを行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から終末期には特養等の入所申請を勧めたり、他の医療機関と相談し引き継ぐなど本人や家族と相談し支援している。	利用者や家族は慣れ親しんだ生活の場での看取りを含む終末期ケアを望んでいるが、訪問医療、訪問看護の体制が整っておらず、終末期は入院や特養入居となっている。事業所は家族等の希望を受け、最大限のケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勤務体制を整え、急変や事故発生に対応できるよう努めている。こまめに体調の確認をし、状況に応じて救急対応ができるよう、研修・書類等の整備などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自力での避難が難しい利用者対応のため、車いす利用の研修等を実施し、併せて避難場所の確保、職員の初期対応などの研修を行っている。利用者に対して災害時の対応等について話をしている。(職員会議時研修している)	火災想定での避難訓練を年2回実施し、立ち合いの消防署員から具体的な助言・講評を得ている。ハザードマップ上では危険地域外だが、隣接の小規模多機能ホームと連携し、非常時の安全確保体制を整えている。飲料水や食糧を備蓄し、発電機2台を備え全員が操作訓練を行っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人へ支援を行う場合、声掛けや尊厳を損ねないよう、ケアプランに従い支援を行う事ができている。担当者が中心となり、訴えがある場合は、傾聴を心がけた上で対応している。結果は職員間で情報共有し対応している。	利用者一人一人の人格を尊重し、尊厳を損ねないケアに努めている。排泄や入浴介助では羞恥心に留意し、小声でも当人に届く様に配慮している。入浴では異性介助も問題なく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から希望や訴えがあった際は、寄り添った支援を行っている。外出時の衣服、入浴後の着替え等本人が決めるよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方について、一人一人の希望に寄り添い、自由に過ごせる時間を設け支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容、入浴後に利用者一人一人の服装や髪の毛の乱れなど確認を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓の清掃、食後の片付けなど、利用者のADLに応じて対応している。希望があった時などは優先して活動できるよう支援している。日曜日は利用者の好みをメニューに取り入れ、一緒に調理の準備、片付けをしている。誕生日ケーキ等も職員と一緒に手作りする。	法人経営の食堂から日曜を除く毎日3食が配達されている。内容や味付け等を検食簿に記入し情報交換している。日曜は利用者の希望を取り入れた献立で、自家菜園や近隣の方から頂く食材を用いて調理している。利用者は下拵えや準備・片付けを楽しんで行っている。毎日の手作りのおやつも好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に必要な水分量が確保できるよう麦茶、コーヒー、スポーツドリンク等味に変化をつけて提供している。食事は医師から指示のある方は指示に従って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。就寝前に入歯洗浄を行うよう声掛け支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のリズムに合わせて声掛けし、トイレで排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者の実態に応じ、見守り・声掛け・誘導を行い全員がトイレで排泄している。布パンツ利用が1名で他はリハビリパンツを用い、2名はパットを併用している。夜間も定時の声掛けでトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行や軽い運動を取り入れ予防に努めている。1日に必要な水分量確保も出来ている。午前、午後体操し上肢・下肢を動かしている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を提供できている。入浴日以外には足浴を行っている。通院日がある場合は曜日を替えて行っている。	週2回の午前中に入浴が基本で、他にシャワー浴や足浴も行っている。季節に応じて菖蒲湯や湯花を用い、色や香を楽しんでいる。入浴を避けたがる人や異性介助を嫌う人はなく、入浴中はゆったりとして職員との会話が弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使っていた毛布、タオル等なじみの物を持参していただき、自宅にいる時の感覚で眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し飲み忘れ、飲みこぼしがないよう確認している。薬情はファイリングしていつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛け、手すりの消毒、テーブル拭き、掃除の後にはコーヒー、ココア等で一服してもらう。その他、洗濯物をたたむなど、できる限り手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を聞き、可能な限り実現に向けた検討を行っているが、コロナ禍の中、ほとんど希望に添うことができなかったが、町内の廃校になった校庭に咲く桜を見にドライブした。	穏やかな日には事業所周辺で日光浴をしたり、近くの寺まで散策に出向いている。バスやワゴン車を使いドライブし、春の花見やつつじ祭り、秋の紅葉狩りを楽しんでいる。家族の協力で通院日にドライブをする方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、現金は日常的に身近には持たせないことになっていて、希望や本人の申し出内容を都度考慮、検討し能力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者、持っていない利用者双方いて、持っている利用者は自由に使用している。手紙については、希望に沿って支援することになっている。希望者には、事業所の固定電話を活用して、家族の声を聞いてもらえるよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を考慮した内容の制作活動を行い、それらの作品で装飾している。また、コロナ禍に伴ない、換気に細心の注意を払いつつ、温度、湿度にも気を配った措置をしている。	玄関や廊下・ホールに写真や季節感溢れる手作り作品が飾られている。エアコンや空気清浄機により温度・湿度が快適に保たれ“生活リハビリ”とし毎朝利用者と職員が共に清掃を行っており、居心地のよい共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の入れ替りや、様子の変化に合わせたテーブルやソファの配置換え、座席位置の支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの家族から贈り物や、家族の写真や飾り、小物や置物、花等を置き、本人が過ごしやすい環境づくりを心掛けている。	居室にベッド・ハンガー・衣装ケースが備えられ、エアコン・ヒーター・空調機により快適な環境が保たれている。利用者は各自使い慣れた小物や手作り作品を飾り居心地よく過ごせる工夫を図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴や日常の本人の様子などを考慮し、その中で出来ることを見つけ、可能な限り自立した生活を送れるように、声掛けや促しをして支援している。		